

## アウトドア環境教育を通して育む幼児期の生きる力

### 【背景】

文科省が、子どもたちに「生きる力」を育むことを教育の基本とすることを提言して以来、その「力」をどのように育むべきか、多くの議論を呼んできた。しかし、それらの「力」をどのような環境で育むべきかの議論は少ない。本研究は、文科省が定義する「生きる力」（中央教育審議会，2003）は、アウトドアの環境でこそ統合的に育成されるとの仮定に立ち、本年度は、以下の目的を達成することを目標とする。

### 【目的】

アウトドア環境教育において独創的で最先端の研究を行っているリンショーピン大学（スウェーデン）国立アウトドア環境教育研究所の協力の下、日本版アウトドア環境教育プログラムを作成する。なお、アウトドア環境教育には、以下の効果が知られている：（１）子どものストレス軽減、（２）子どもの集中力の向上、（３）仲間との協働の機会の提供。（４）多様な学習環境の提供（教室からアウトドアへ）、（５）多様な学習スタイルの提供（教科書ベースから発見・体験型の学習へ）（６）持続的循環型社会に関する学習機会の提供

### 【実施内容】

第1期（平成23年4月～7月）：アウトドア環境教育に関するスウェーデンの出版物で、幼児教育に関するものを収集し、日本語に翻訳する。

第2期（平成23年8月～9月）：リンショーピン大学国立アウトドア環境教育研究所主催の保育者対象の研修に参加し、そのプログラムを体験し、記録する。

第3期（平成23年10月～平成24年3月）：文献、および映像として得られた資料に基づき、日本の幼稚園教育要領や保育所保育指針に準拠した

内容で、保育者が現場で実践することができるプログラムを作成する。



### 【翻訳の経過と今後の予定】

上記の「遊びと学習」（Naturskola 編）を、日本の保育所保育指針・幼稚園教育要領の形式や表現を尊重しながら翻訳を行った（2012年春刊行予定）。総ページ数は、約100頁となり、その目次は以下の通りである：

（１）数学の言葉、（２）測定と空間認識、（３）分類とパターン、（４）数の知覚、（５）森の生き物、（６）プリスクール園庭での数学ワークショップ、（７）実践のアドバイス、（８）ミッションカード。

次年度は、これらの教材に基づき、研究協力園で実践を行い、日本の保育環境にあった「日本版アウトドア環境教育プログラム」の開発・検証・改善を行う予定である。